

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第5期第3回相模原市中央区区民会議			
事務局 (担当課)	中央区役所区政策課 電話042-769-9802(直通)			
開催日時	平成30年11月15日(木) 18時00分～20時00分			
開催場所	相模原市立産業会館4階特別会議室			
出席者	委員	22人(別紙のとおり)		
	その他	6人(企画政策課3名、都市計画課3名)		
	事務局	16人(中央区長、中央区副区長、他14人)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 2人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	<p style="text-align: center;">開 会</p> <p style="text-align: center;">議 題</p> <p style="text-align: center;">(1) 中央区の目指す姿に関する意見交換のまとめ【資料1】</p> <p style="text-align: center;">(2) 市民意見聴取の取組の報告について【資料2】</p> <p style="text-align: center;">(3) 「区の目指す姿」の骨子案について【資料3】</p> <p style="text-align: center;">(4) その他</p> <p style="text-align: center;">閉 会</p>			

主な内容は次のとおり。

(会長の発言 委員の発言 事務局の発言)

開 会

区民会議規則第3条第3項の規定により、飯島会長より議事を進行した。

会議の成立要件を満たしている旨の報告、傍聴希望者の報告を行い、傍聴を許可した。

傍聴希望者 2名

議 題

(1) 中央区の目指す姿に関する意見交換のまとめ【資料1】

【資料1】により、事務局から説明を行った。

(2) 市民意見の聴取の取組の報告について【資料2】

【資料2】により、事務局から説明を行った。

(3) 「区の目指す姿」の骨子案について【資料3】

【資料3】により、事務局から説明を行った。委員からの意見は、次のとおり。

(主な意見等)

【基本目標 (子ども・教育)】

今まで出た意見は具体的な方策ではなく方向性のようなものであるが、区別基本計画には具体的な方策は入れていかないのか。

現時点では、皆さんに「中央区の目指す姿」についてご議論いただいている段階である。まずは、「中央区の目指す姿」を定めた上で、その姿を実現していくための具体的な方策について、ご議論いただきたいと考えている。

○各地区のまちづくり会議報告書の内容を見ると、どの地区でも共通した地域課題が挙がっている。区別基本計画を策定していく上で、理想のビジョンだけでなく、人口減少、少子高齢化、財政難等の社会情勢についても盛り込んでいくべきである。

○子育て世帯を地域で一方的に支えるというよりも、当事者と地域が共に取り組んでいくというイメージがあるので、「地域と共に支えていく」というような文言を入れていただきたい。

○目指す姿を考えていく中で、誰を主役とするかが重要である。例えば、子どもに焦点を置いた場合は、子どもの未来やそれを支える環境づくりに係る言葉や施策を中心に盛り込んでいく必

要がある。

- 子どもの支援の前に、大人をしっかりと支援していく環境づくりが必要である。親の育った環境が子どもに大きな影響を与えるため、近年、共働き世帯が増加する中で、安定した労働環境の確保、子育て環境の支援等の制度を整備していくべきである。
- 生涯学習の分野で、よく「生涯現役」という言葉を耳にするが、「生涯現役」という言葉を使用すると、高齢者に対する支援が中心となる印象を感じる。子どもを含めたあらゆる世代の生涯学習を支援していくとすると、表現を見直す必要がある。
- 全国学力テストの結果からも、相模原市全体の教育レベルの強化が求められていると思うので、教育に係る文言についてもしっかりと表現するべきである。
- 教育の分野においても、格差、障害児、国際化など、取り巻く環境が多様化しており、子ども全体を指す場合は、「全ての子ども」という表現を文言に入れていくべきである。

【基本目標（共生・健康）】

- 資料1の中に「在宅医療の環境整備」という文言が出てきているが、相模原市のホームドクターは少ないと感じている。相模原市としてのホームドクターの育成に係る取組について教えていただきたい。
本日、統計資料がないため、細かい数字についてはお答えできないが、市としては、総合診療医の育成について、大学病院等と連携した取組を進めているところである。取組がすぐに診療所の医師の増加につながるとは言い切れないが、かかりつけ医の大切さを市民に周知しつつ、引き続き、総合診療医の育成に取り組んでいくところである。
- 「地域で支えるまちづくり」という文言は、とても良い表現だと思う。「一人ひとりを地域が支えるまちづくり」などの文言にすれば、さらに良くなると思う。
- 資料3の人権・男女の部分に、「女性が活躍できる環境づくり」という文言があるが、近年、LGBTが注目されている中で、この表現は、人権の部分の視点が抜けていると感じる。あらゆる人を指す言葉として、「誰もが」という表現が良いのではないか。その上で、施策の細かいところで、男女共同の視点を入れていくべきである。
- 健康の分野で、中央区の特色として、「さくら体操」の文言を入れていただきたい。また、健康促進の取組を行う前段として、高齢者に配慮した交通網の整備が必要である。
- 地域によっては、無料や一部有償で、高齢者宅に訪問し、電球交換や草取り、家具の移動等の作業を手伝う取組が行われている。このような取組を、区内各地区に広げていくことで、地域での支え合いにつながると思う。

○地域づくりは、住民だけでなく、地域を拠点とする企業も巻き込んでいく必要がある。現に、企業からバスを借用し、買い物バスとして運用している地域もある。基本計画を策定していく上で、地域と企業の連携という視点を入れていくべきである。

○他自治体の企業では、商品の購入者に、お手伝いサービスを実施しているところもある。このような取組を、区内でも実施できればと思う。

【基本目標（安心・安全）】

○全体的に、中央区としての特色が薄いように感じる。例えば、高齢者のポイントサービス、補給廠を活用したイベントの誘致や遊び場づくり等の社会実験を実施できればと思う。そのためにも、社会実験を行えるような環境整備が必要である。

○防災に係る地域と行政の情報共有の連携が求められている。例えば、風水災害発生時に、境川の情報を提供してもらうためには、神奈川県に依頼する必要がある。非常時だけでなく、日頃から、地域と行政が情報共有できる体制をつくっていく必要があるため、そういった取組についても、基本計画に盛り込んでいただきたい。

○「空家が地域交流の拠点となるまちづくり」とあるが、もう一步踏み出して、空家の活用方法、地域振興の資源としての活用等について、議論をしていきたい。

（４）その他

事務局から、「中央区ぶらさんぽ」について、実施内容や開催日時等の概要説明を行った。

委員から、「地方発の5Gの利活用アイデア募集」、「『未来の年表』作者の河合雅司氏の講演会」、「こども未来ワールド in 光が丘」について、情報提供があった。

閉会

竹田副会長あいさつの後、閉会。

第5期第3回相模原市中央区区民会議 委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	飯島 泰裕	学識経験者（青山学院大学）	会長	出席
2	石井 今朝太	小山地区まちづくり会議		出席
3	石井 トシ子	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら		出席
4	井上 政市	相模原交通安全協会		欠席
5	牛尾 良一	中央地区まちづくり会議		出席
6	浦上 裕史	一般社団法人相模原市観光協会		出席
7	大木 美沙瑛	公募委員		出席
8	大谷 政道	相模原市公民館連絡協議会		出席
9	川道 英弘	相模原市立小中学校PTA連絡協議会		出席
10	河本 博	大野北地区まちづくり会議		欠席
11	神田 隆吾	公益社団法人相模原青年会議所		出席
12	木内 哲也	一般社団法人相模原市医師会		出席
13	小林 充明	上溝地区まちづくり会議		出席
14	斎藤 奈美	特定非営利活動法人さがみはら環境活動ネットワーク会議		出席
15	坂本 洋三	相模原市地区社会福祉協議会中央区連絡会		出席
16	佐藤 悠貴	公募委員		出席
17	清水 洋子	相模原市私立保育園・認定こども園園長会		出席
18	志村 勝美	田名地区まちづくり会議		出席
19	末永 暁子	横山地区まちづくり会議		出席
20	竹田 幹夫	星が丘地区まちづくり会議	副会長	出席
21	田代 明寛	清新地区まちづくり会議		出席
22	永野 堅次	相模原市民生委員児童委員協議会		欠席
23	中村 太郎	相模原商工会議所		出席
24	馬場 裕美	公募委員		出席
25	割柏 秀規	光が丘地区まちづくり会議		出席